

海の人材育成に関する国際シンポジウム

2016年7月19日～20日 | 日本・東京

セッション5：若年層向けの海洋教育プログラム

Photo credit: Nick Hall

自然と生計に対する若者の参加

インドネシア、バンカ・ビリトン州ビリトン島

1) 当プロジェクトの主眼点

このプロジェクトでは、ビリトン島における天然資源の回復、保護および管理のために、持続可能な沿岸および内陸のエコシステム管理の実施に取り組んでいる。これは、若い住民の教育と意識向上を通じて、またコミュニティの貧困を減らして生計を強化することによって達成される。このプロジェクトは、保護、教育および生産性間の相乗効果をモデルとしている。

2) 参加組織その他のパートナー

主導的な役割を果たす組織は、1997年11月に Budi Setiawan によって設立された Kelompok Puduli Lingkungan Belitung (KPLB) 沿岸コミュニティ・グループである。KPLB の組織は、3つの部門（政策提言・環境キャンペーン部門、青少年教育部門、コミュニティ権限付与および代替的生計手段の生成のための部門）から構成される。このモデルは、KPLB の精神と適合するように設計された。KPLB は、環境を保護するために、政策提言およびキャンペーン活動とともに、若い住民を教育し、動機付けを与えることも不可欠であると考えている。持続可能な方法で潜在的な天然資源を利用することにより、どのように経済および社会上のプラスの影響が社会に生じうるかについて、実際的な例を若い住民に示すことができる場合、この教育は最も効果的になる。このプラスの影響には、代替的な生計手段の発展、つまり新しい雇用の生成が含まれる。

このプロジェクトを進展させるために、UNDP、UNEP、GEF Small Grants Programme Indonesia、Telapak Indonesia、Lembaga Ilmu Pengetahuan Indonesia (LIPI、インドネシアの科学研究所)、政府など、複数の他のパートナーが KPLB と協力した。

3) 能力開発において効果が証明された活動やツール

KPLB は、プロジェクトを効果的にするとともに、現地コミュニティによってプロジェクトが受け入れられることを目的として、以下に基づく作業慣習を策定した。

- プログラム／援助資金提供者／政府、さらには環境自体のニーズだけでなく、社会のニーズに適合する方法で、プロジェクトを開発する。
- 「住込み」作業モデルを設計し、利用することにより、コミュニティの一部となる。
- すべての利害関係者間でプロジェクトに対する責任感を高めるために、NGO、政府、民間部門、科学者、コミュニティが関与して相乗効果を実現する。
- 継続的かつ中長期的な計画および規制によってプロジェクトを支援する。
- 地図作製プロジェクトのニーズ、現地の知恵の再生、活動計画の策定、チームの

構成などの活動を含む意思決定プロセスの最初から、現地コミュニティの意見に耳を傾け、反映する。

以下のようなプロジェクトの目標を達成するために、広範な能力開発活動が実施された。

1. サンゴ礁、ウミガメ、メガネザル、およびマングローブなど、効果的かつ持続可能な天然資源管理の実施に関する参加型の教育と研修
2. エコツーリズム（環境保護を重視した観光）を発展させることによる、沿岸と内陸のコミュニティにおける生活水準の向上
3. 現地住民が所有し、経営する天然資源の管理と利用のための事業による、環境に優しく、持続可能な労働ネットワークの構築
4. サンゴ礁移植・ウミガメ保護センターの設立
5. 教育・環境保護プログラムの自己資金調達戦略として、エコツーリズムの目標を推進するための研修・教育センターの設立

上記の活動を通じて、KPLB は、キャンペーンや政策提言の課題に取り組むだけでなく、住民を教育し、コミュニティの生活水準を高めることができる代替的な生計手段が確実に生じるようにする。

4) 特に、継続的に能力開発に取り組むことおよび／または同様のプロジェクトを他の地域で展開することに関連して経験した困難な課題

プログラムの規模を拡大する際に、KPLB が直面した最大の課題は、環境保護に向けて主要な利害関係者の考え方を変えることであった。現在利用可能な天然資源は「自由」にすべて割り当てるべきではなく、「コスト」を考慮に入れて管理すべきことを住民に説得するためには、時間と根気が必要である。また、多くの利害関係者は単独での活動を好むため、統合パートナーシップ・プロジェクトに参加させることは困難である。しかし、沿岸の保護のために熱心に一貫して取り組むことにより、多くのレベルでプロジェクトの規模の拡大に成功した。

全体的に、KPLB は、今後の発展を可能にする環境を整えた。たとえば、現在、ビリトン島の他の開発計画では、コミュニティから政府レベルまで、複数の利害関係者が協力するという KPLB の原則とコンセプトが採用されている。また、組織としての KPLB とその作業領域は、民間企業、LIPI、外国の研究機関、学校を含む多くの組織にとって学習、交換研究、研修、調査のための目標となった。

5) プロジェクトの次のステップ

KPLB は、以下のような多くの活動を次の期間に実施する。

- より広範囲に規制を強化するために、国家レベルでビリトン地域の海洋保護ゾーンを参考にしたプロセスを引き続き促進する。この正式な規制によって、保護状況が強化され、スズの採掘と環境に破壊的な影響を及ぼす採掘船などの環境への脅威から保護される。
- 50,000 のマングローブの種を植えることを目標として、マングローブの種の苗床施設を設立し、重要なマングローブ地域に植樹する。
- 2009 年以降、KPLB は、1 万 5,000 匹を超える子供のウミガメを放流した。今年目標は、ウミガメの保護のために 2 カ所の新しい島を指定することに加えて、さらに 2500 匹を放流することである。
- サンゴ礁ガーデンとサンゴ教育センターを設立を進める。
- 他の地域レベルと国家レベルでこのプログラムを再現し、バンカ・ビリトン州の 6 カ

所に地域密着型の観光センターを設立する。

- 1,000 人の生徒を今年目標として、「自然友愛学校」を設立する。

詳細情報：

KPLB の詳細については、以下の動画を参照。

- 「ビリトン島のストーリー（The Story of Belitung）」、Youtube 動画：
<file:///file/id=6571367.1443842>
- 「ビリトン島（The Belitung）」、Youtube 動画：
<file:///file/id=6571367.1443760Y>
- 「KPLB、2015 年インドネシア赤道賞を受賞（Kelompok Peduli Lingkungan Belitung, Indonesia Equator Prize 2015 Winner）」、Youtube 動画：
<https://www.youtube.com/watch?v=s2NQTgWV4xQ>

www.kplbelitung.wix.com/savetheplanet